

博報堂の「親子健康手帳」と「できますゼッケン」が 2011年度グッドデザイン賞を受賞

博報堂生活総合研究所が独自開発した「新・母子健康手帳（通称＝親子健康手帳）」と、博報堂の社内プロジェクト hakuodo+design が神戸市などと共同で開発したボランティア活動支援ツール「できますゼッケン」が、日本産業デザイン振興会主催の2011年度グッドデザイン賞を受賞いたしましたので、お知らせいたします。

<親子健康手帳>

博報堂生活総合研究所の「日本の母子手帳を変えよう」プロジェクトにおいて、全国の生活者や医療関係者へのインタビュー、日本・世界の先進的な母子手帳のケーススタディなどを通じて得られた発見をもとに独自開発したものです。2011年4月より島根県海士町、栃木県茂木町で使用されています。

◆デザインのポイント

デザインや機能面の進化が長年止まっていた母子手帳を、現在の育児環境に適応した形に進化させることを目的に開発しました。多数のユーザーの声を源泉とし、サイズやページ数などに制限があるなかで情報を厳選し、使いやすく記入しやすい機能性と、お母さんお父さんの心に響く審美性の両立を迫りました。



<できますゼッケン>

デザインの可能性を研究する博報堂の社内プロジェクト hakuodo+design が、神戸市デザイン都市推進室などと推進する市民参加型ソーシャルデザインプロジェクト「issue+design」が企画。被災地や避難所のボランティアスタッフや被災者が「自分にできること」を表明し、互いの助け合い行動を促すための自記入式ゼッケンです。気仙沼市、釜石市、石巻市他の被災地で活用されています。

◆デザインのポイント

情報も人も交錯し混乱している被災地で必要な情報が確実に届くように、視認性と分かりやすさにこだわりました。A4横サイズの大きなゼッケンに、赤（医療・介護）・青（ことば）・黄（専門技能）・緑（生活支援）の基本4色、「自分にできること」と「氏名」の記入欄のみを設けたシンプルなデザインです。

